

TMA長期投資ファンド<適格機関投資家限定>

ありがとう投信
Ariгато Asset Management Inc

※弊社が組入れているファンドの中で、マーケットコメント等の提供があるものについて、直近の内容を掲載しております。

運用:東京海上アセットマネジメント投信株式会社 <http://www.tokiomarineam.co.jp/>

基準日:2010年2月26日

マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	国	業種	比率
1	BERKSHIRE HATHAWAY INC-CL A	アメリカ	保険	3.7%
2	キーエンス	日本	産業用エレクトロニクス	3.4%
3	セブン銀行	日本	銀行	3.2%
4	花王	日本	家庭用品	3.1%
5	信越化学工業	日本	基礎素材	3.1%

※ 比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

< ファンドコンセプトのご説明 >

どんな会社?こんな会社(21)

今回の企業は、日本を代表する産業用ガス企業「エア・ウォーター」です。この産業用ガスは、エネルギー源としての天然ガスのことではなく、酸素や窒素といった空気に由来するものであり、各種産業の加工過程で使用される素材で、製造現場では必要不可欠なものなのです。

例えば、鉄を作る製鉄所では鉄鉱石を高温で燃焼し溶かす必要があります。その際に、燃焼効率を向上させるために高濃度の酸素が必要になります。さらに、質の高い自動車ボディ用の薄板に加工する場合には、高純度のアルゴンや窒素ガスも必要となるため、わが国の鉄鋼、自動車産業にとっては、純度の高い産業用ガスが安定的に供給されることが求められています。また、エレクトロニクス製品のコアとなる電子部品(半導体、液晶パネルなど)の製造過程では、その精密さが故に不純物の混在は許されません。他のガスや物質と反応しにくい高純度の窒素ガスは、精密電子部品の製造過程で不純物を除去する大切な役割を担っています。

エア・ウォーターをはじめとする産業用ガス企業は、各種産業の工場内、もしくは工場隣接地に産業用ガス供給設備を建設し、ガスの安定供給の役割を担っています。注目すべきは、産業用ガス企業の業績は、顧客である鉄鋼、自動車、エレクトロニクス産業などの業績に左右されるものの、顧客の工場と一体になっているため、一度構築した顧客との関係が続く限り、過当な競争にさらされにくいという特徴がある点ではないでしょうか。

ガスの供給は、産業分野ばかりではなく、医療分野においても必要不可欠なものとなっています(医療用ガス)。無菌な人工空気を供給できる人工空気製造装置(液化ガスを混合する装置)を病院の敷地内に設置し、一般病室だけでなく、手術室、集中治療室(ICU)への「空気まわり」の設備を一まとめにして提案するなど、呼吸器疾患などの治療で鍵を握る医療用ガスの供給を、エア・ウォーターは担っています。中でも、エア・ウォーターの特筆すべき点は、独自開発した高効率小型VSU(液化酸素・液化窒素製造装置)を全国8拠点に設置することにより、これまで大規模プラントから長距離輸送されていた液化ガスを全国に分散しています。これにより、タンクローリー輸送距離を短縮し

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

CO2排出削減に貢献するとともに、災害時の交通インフラ混乱に左右されにくくなり、中断が許されない医療現場への医療用ガス供給の持続可能性を高めています。

このようにエア・ウォーターは、産業界や医療現場の裏方を請け負う仕事人という役割を担い、その社名の通り「空気や水のように」、ガステクノロジーを基盤に地球資源(空気などのガス、海水)を活用し、世の中に欠かせない役割を果たしているのです。

◎参考資料1:エア・ウォーター株式会社「環境・社会報告書2009」

http://www.awi.co.jp/environment/pdf/2009/all_awi_esr2009.pdf

◎ 参考資料2:エア・ウォーター株式会社「アニュアルレポート2009[事業報告](日本語版)」

http://www.awi.co.jp/ir/library/pdf/annual09_business.pdf

(上記のコメントは当ファンドの基準日現在の組入銘柄の紹介であり将来変更する可能性があります。また、特定の銘柄の投資勧誘を目的として作成したものではありません。)

< 運用経過と今後の方針等 >

2010年2月、ギリシャの財政悪化懸念がスペインやポルトガルへも広がるといったソブリン・リスク(公的機関の債務不履行リスク)に市場の注目が集まっていることや、中国人民銀行が今年に入り2回目の預金準備率を引き上げるなど、超緩和的な金融政策が後退したことなどから、各国の株価指数は上値の重い展開となりました。

このような環境下、当ファンドは、「エネルギー」、「食」、「豊かな生活」に関連するビジネスを展開する52社の内外企業の株式へ投資しています。2月末のマザーファンドにおける株式組入比率は、資産全体の84.7%程度(国内株式61.0%程度、外国株式23.7%程度)であり、主に相対的に時価総額の小さい銘柄への入れ替えを実施しました。その結果、国内投資先企業数は37社、外国投資先企業数は15社への投資となっております。

米国や中国をはじめとした超緩和的な金融政策スタンスは修正が図られ始め、流動性の供給はピークアウトする可能性が高まっています。株式市場は、企業利益の質を問い始めることになり、コスト削減だけではない持続的成長要因があるのか否かが焦点となってくると考えられます。インフレ圧力が衰えない経済環境において、財務安定性があり安定的な価値創造を継続している企業への株式投資は、インフレ率を上回る収益率を享受することができる一方で、経済環境の影響を大きく受け利益が変動しやすい企業への株式投資は、相対的に劣後するといった二極化が目立つようになると考えています。

TMA長期投資ファンドでは、安定成長企業の株式を中心に、今後も、投資信託財産の長期的な成長を目指して、引き続き安定成長を享受できるポートフォリオを構築してまいります。また、株式組

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

入比率は抑制傾向を維持するものの、安定成長企業において株価に割安感が確認できる局面では、積極的に組み入れを行う方針です。

以上